

令和4年度事業実績報告

拠点区分	サービス区分	番号	事業名	地域福祉実践計画体系	具体的な実施事項	令和4年度 事業実施内容	令和4年度実績	令和3年度実績
社会福祉事業拠点	企画広報事業	1	社協だより発行業務	基本目標3	4. 7. 10. 1月 年4回発行 発行部数86,300部×4回 全戸配布	年4回社協事業の紹介を実施。地域の方より、社協だよりを見て苦小牧市の福祉の活動を知る機会ができたなどの声をいただいた。今後も意見を参考にし、地域の方々へ様々な福祉活動の情報を発信する。	4月・7月・10月・1月 185号～188号発行 計345,200部 ・PRグッズ作成(うちわ、ネックストラップ) ・70周年記念ライブドローイングで語ろう研修会 11月1日開催 ・笑顔の彩発見フォトコンテスト ・苦小牧社会福祉功労者顕彰式、創立70周年記念笑顔の彩発見フォトコンテスト表彰式11月16日開催	4・7・10・1月 181～184号発行 計344,600部
		2	70周年記念事業	地域から信頼される社協づくり「まち」	創立70周年記念事業「社協会長表彰」「70周年記念講演会」	職員によるプロジェクトチームを結成し、「ふくしの力、彩(さい)発見」をスローガンに地域の皆様や関係機関へ感謝を伝えるため、職員一同、苦小牧社会福祉功労者顕彰式や記念事業を実施した。		
	地域福祉推進事業	1	生活支援コーディネーター受託事業	基本目標2 笑顔あふれる地域づくり「ちいき」	(1)生活支援・介護予防サービスのコーディネート ①地域の高齢者支援ニーズ及び地域資源の把握、問題提起 ②資源開発 ③担い手養成・意識醸成 ④個別支援 ⑤関係者との協議 (2)多様な関係主体間の定期的な情報共有及び連携・協働による取組の推進に関すること。 ①犬・猫一時預かり事業 (3)コミュニティーソーシャルワーカーと兼務し、地域支援を行う。 ①担い手活動支援(だけボラ)事業 ②勇払樽前移送支援事業 (4)町内会、自治会において「声かけ・見守り活動」の支援対象者を拡大し、社会的孤立を防止し地域の悩みや不安を解消支え合いの環境づくりを推進(あんしん生活サポート事業を継承)	(1)①地域におけるアンケート調査(第3弾)を実施。令和4年9月に地域を対象にアンケート調査を実施。主な調査内容として、地域活動状況とデジタル関連、見守りガイドブック集Ⅱ(防災編)の3点について伺った。本調査のすべての団体の約7割の回答結果があった。デジタル化に伴う「役員内での困り事」等について、LINE(スマホ操作含む)やZoomに関する意見があった。また、今後地域でやってみたいことについては、「スマホ教室の開催」が最も多い結果となった。 ②市営住宅を対象にだけボラ(灯油運搬)事業を開始。ニーズ把握について、主に町内会や民生委員、包括等と連携をしながら行った。主な利用者は高齢者世帯だが、障がいのある方や母子世帯においても一定のニーズを把握した。 新明町(5丁目)にて、地元商店の閉店に伴い、特に自家用車のない高齢者が買い物難民であることを民生委員より把握。そのため、コープ「おまかせ便カケル」体験会を新明町総合福祉会館にて開催。参加者が30名と地域全体でのニーズも把握ができたため、次年度は本実施に向けて進めていく。また、勇払では医療機関がないため、OTC(一般市販薬)が購入困難であることを(株)ホーユーより把握。次年度から、勇払への薬の配送事業に向けて、ファーマライズ薬局と取り進めている。 ③災害時の見守り体制の構築に向けて、各地域の町内会や民生委員と一緒に名簿や地図の作成に加え、防災訓練や福祉学習等の機会を設けた。 (2)①犬猫一時預かり事業。令和5年3月末時点で、ボランティアが42名、利用登録者が51名(うち事前登録15名)いる状況。今後も継続して、事業周知と動物病院や保護団体、保健所等、関係機関との横のつながりを図っていく。 (2)②だけボラ事業(楽しめーる複製本やだけボラ農園、家事全般等)を中心に担い手養成。また、今年度はだけボラ事業研修会を実施。だけボラ間、更にはだけボラと地域とのつながり構築を図った。 (3)①移送サービス事業(勇払・樽前)について両地区合わせて、今年度延べ人数が約300名と、月平均で25名可動している状況。次年度から、総合事業(訪問D)開始に向けて、市、包括等と調整を進めていく。	(1) ①171件 ②90件 ③133件 ④16件 ⑤104件 (2)21件 預かり ①ボラ42名、猫14匹、犬9匹 (3)4月～3月ボラ活動人数延べ870人 ②活動日数 153日 利用者(累計) 30名※灯油利用者除く (4)個別ケア会議 23回 圏域会議 6回	(1) ①184件 ②126件 ③149件 ④43件 ⑤115件 (2)20件預かり ボラ35名、猫63匹、犬4匹 (3)①活動日数104日 登録人数73名 ②活動日数 133日 延べ利用人数 179名 (4)個別ケア会議 21回 圏域会議 4回
	2	CSW事業	基本目標1 安心して暮らせる支援体制づくり「ひと」	高齢者や障がい者等に限らず、地域の課題について把握し、その課題解決のための地域資源づくり等について地域の方々と対策を検討 市内7包括圏域に各1名を段階的に配置する。	1名増、4名体制にて活動 ひきこもり・不登校支援居場所づくり※新規 (市内全域にてポスター・チラシ等による周知活動・周知説明会の開催) 不登校家族座談会 風まち (偶数付き第3木曜開催) R4年8月開始 コミュニティーカフェ igocoti (毎月第2水曜開催) R4年9月開始 次年度、CSW公式相談LINEの開設やCSW農園「という」の開設など新たな事業展開を進めていく。CSW増員6名体制となる。	相談63件(うち来所相談7件)支援7件、継続21件、支援終了16件 実施日数 4日 参加者数 53名 実施日数 8日 参加者数 141名	相談83件(うち来所相談11件)支援20件、継続19件、支援終了31件	
	3	かぎ預かり事業	基本目標1	社協へ申込→依頼者居住地近郊の協力施設にてかぎ保管(24時間対応)→事業協力員が安否確認	かぎ預かり事業への理解・周知(ポスター・パンフの作成・説明会の開催等)に努め、新規協力施設、新規利用者の増を図る。	3月末:預かり 31件 3月末:協力施設 12件	預かり 27件 協力施設 13件	
	4	ふれあいサロン事業	基本目標2	地域が運営するサロン開設をサポートし、地域住民の社会参加・見守り・安否確認・情報共有の推進を図る。	コロナ禍において活動再開のめどが立たず各町内会老人クラブは大変苦労していた。次年度以降制限緩和もあることから丁寧に再開へ案内しサロン活動を活発にしていきたい。引き続き、出前サロンを中心にPR活動を推進し、1町内会に1サロンを目指していく。	3月末:登録数 78ヶ所	登録数 70ヶ所	
	5	介護支援いきいきポイント事業	基本目標2	65歳以上の市民を対象に登録研修会を開催し、登録者本人の介護予防と要介護・要支援状態の方に対する地域の支え合い活動の推進を図る。	(1)コロナ禍において、従来の支援活動場所が大きく減る中、登録者の活動意欲や研修・交流の場を確保するため、「いきカフェ」を開催し、登録者の情報発信・共有の機会を設ける。 (2)カフェに参加できない登録者の情報発信・共有の場として「いきカフェ通信」を発行する。 (3)在宅高齢者支援活動を推進する。 (4)新規登録者に対する活動開始のサポートを行う。 (5)手帳の更新を行っていない登録者の、更新意思を確認する。	(1)10回開催 延べ参加人数139名 (2)5回発行 (3)利用18件 ボランティア活動者24名 (4)16名登録 (5)105名登録解除	登録数 371名 (5名増 35名減)	
	6	無縁仏供養法要事業	基本目標1	市内で身元が判明しないままお亡くなりになられた方、社会の移り変わりによって、縁者を失ってしまった方々のお盆供養として毎年8月に、仏教会、立正佼成会の協力により開催	仏教会の協力のもと、開催し、コロナウイルス感染予防対策を行い一般の市民にも参列いただき実施した。	8月23日 縮小開催 参加者 26名	8/19関係者のみで開催	
	高齢者福祉推進事業	1	愛の一声運動	基本目標1	市内に居住する65歳以上のひとり暮らし及び高齢世帯で安否確認が必要と認められる方からの申請を受け、ヤクルトの配布を行い安否確認を実施する。	安否必要時に連絡がスムーズに図れるよう関係機関と連携し事業を実施した。令和4年度の安否確認件数は144件、内孤独死は0件	登録世帯 277世帯(3月末) 配付利用者実績 3,364件	登録世帯278世帯 配付利用者実績3,121件
	2	給食サービス事業	基本目標1	市内に居住する65歳以上の高齢や障がい等で調理や買い物等が困難な方へ配食し、栄養面の安定を図る。 (利用料1食400円を利用者が負担)	安否必要時に連絡がスムーズに図れるよう関係機関と連携し事業を実施した。また、年に一度利用者へのモニタリングを実施し、心身の状況や生活環境の把握に務めた。 令和4年度の安否確認件数は44件、内孤独死は2件 モニタリング件数252件	登録者 307件(3月末) 配付利用者実績 3,492件	登録者330件 配付利用者実績3,856件	
	3	在宅介護リフレッシュ事業	基本目標1	在宅介護者の心身のリフレッシュと介護者同士のつながりをつくることを目的として、研修や体験活動と1泊の温泉宿泊・日帰り旅行を各1回開催	新規での利用者が増加している。周知期間を早める事により、多くの方々に知っていただき、参加していただくように努める。	第1回 7/21開催(参加者21名) 第2回 12/7開催(参加者7名)	第1回 中止 ・過去参加者へ慰労品贈呈	
	ボランティアセンター事業	1	ボランティア体験プログラム事業	基本目標2	1. 51メニューの体験ボランティアを通じてボランティアへの理解や関心を広げ、登録ボランティアの拡大を図る。	1. (1)コロナ禍の影響でボランティアを受け入れることが出来ない団体もあり、R4年度は41メニューにとどまる。 (2)ボランティアセンター主催事業への参加者等にプログラムを案内し。参加者及び活動者の増を図る。	1. (1)41メニュー (2)参加者18名(延べ25名)	1.参加者 7名
2	傾聴ボランティア養成事業	〃	2. 「ボランティア養成講座」を開催し登録ボランティアの拡大を図る。	2. コミュニケーション力の向上を含めた傾聴の基礎的な知識や技術を学び、傾聴活動に資する人材育成を図る。	2. 参加者 54名	2.参加者 11名		



令和4年度事業実績報告

拠点区分	サービス区分	番号	事業名	地域福祉実践計画体系	具体的な実施事項	令和4年度 事業実施内容	令和4年度実績	令和3年度実績
社会福祉事業拠点		3	災害ボランティアセンターの整備	〃	3. 防災・減災の意識を高めるため、平常時から苫小牧市と連携・協議し、職員・地域住民を対象とした講習会等を開催する。  (1)一般市民を対象に「防災ボランティア講座」を開催(3会場で開催)  (2)小学生とその保護者を含む家族で構成されるグループを対象に「家族でチャレンジ！防災シミュレーション」を開催。  (3)防災ボランティア登録者を対象に「防災ボランティア登録者研修交流会」を開催(年2回開催)	3. (1)未登録者対象の防災講座を開催することで登録者増を図り、被災時の共助体制構築につなげる。  (2)苫小牧市の未来を担う若い世代へアプローチし、防災・災害及び防災・災害ボランティア活動に関する学び合いの場を設け、新たな繋がりを作っていく。  (3)防災ボランティア登録者同士の交流の場を設け、情報交換と防災に関する意識及び知識等のスキルアップを図り、災害時の適切な防災活動につなげる。  (4)被災状況下において、燃費効率・機動力に優れたライダー登録の推進を図る。	3. (1)参加者 66名(3回開催) 新規登録者 21名  (2)12月10日開催 5家族17名  (3)第1回 7月16日開催 36名 第2回 1月28日開催 40名	3.参加者44名
		4	ボランティアスクール事業	基本目標2	4. 小中高生それぞれを対象としたボランティアスクールを実施し若年層のボランティア育成を図る。(年1回)	4. 児童、生徒のボランティア活動に対する理解を深め、主体的学びや自主的な活動に結び付け、事業を展開する。	4. 8月19日開催(小学生の部) 8名 11月27日開催(中高生の部) 13名	4.12月27日・1月12日開催7名
		5	雪かきボランティア事業	基本目標1	5. 高齢・障がいにより自力での除雪が困難な世帯に対し除雪支援を行う。	5. ボランティアと地域住民活動を調和させながらの継続を推進する。	5. 1,749件(延べ件数)	5.延べ1,609件
		6	市民ボランティア講座開催	基本目標2	6. 市民に広くボランティアに関する理解を深めてもらうための活動として実施(年1回)	6. (1)「気づき、考え、行動する」をテーマとした講話を受け、「高齢化社会」「障がい児・者の困り事」「子どもたちの生活」「ペット問題」の4部門について、市民目線で課題について話し合う。 (2)4部門それぞれの課題について分科会を設け、課題解決に向けた活動について参加者が考え行動に移すきっかけとする。 (3)ボランティア、市民活動への興味・関心を深め、他の事業や体験プログラムなどへの参加を促していく。	6. 7月21日開催 30名 【分科会】 ①「高齢化社会」1月16日開催 51名 ②「障がい児・者の困りごと」8月22日開催 29名 ③「子どもたちの生活」9月26日開催 29名 ④「ペット問題」10月14日 20名	6.10月20日開催 16名
		7	ボラセン・フェスティバル開催	〃	7. ボランティア活動者間の交流、活動者と支援を必要とする側との交流の場を設け、市民ボランティア活動の活性化とネットワークの広がりを目的として開催	7. (1)個人、団体の活動者同士の交流やつながりを広げボランティア活動の活性化を図る。 (2)ボランティア活動者によるパネルディスカッションに時間を設け、活動の魅力を発信する。	7. 10月29日開催 459名	7.10月16日開催 443名
		8	ボラセン・ギャラリー開催	〃	8. ボランティアセンター登録団体及び個人の活動と、ボランティアセンター事業をパネル展示でPRし、新たなネットワークの広がりを目指す事を目的として開催	8. (1)市民活動センターとMEGAドンキホーテの2か所で開催。 (2)ボランティアセンター登録団体、体験プログラムメニュー、ボランティアセンター主催事業、各種講習会・研修会の様子などを、パネル展示という形で紹介。 (3)来場者に登録制について案内し、新たな登録者増を図る。	8. (1)市民活動センター 93名 うち、新規登録者1名 MEGAドンキホーテ 242名 うち、新規登録者7名 (2)協力ボランティア 58名 (3)新規登録者2会場合計 8名	
		9	登録ボランティア研修交流会		9. ボランティアセンターに登録している個人・団体ボランティア同士の情報交換や交流を通じた学び合いの場として開催	9. (市民ボランティア講座分科会「高齢化社会」と兼ねて開催) (1)個人情報の取り扱いに関する講話 (2)効果的な情報発信に関する講話と実技体験	9. 1月16日開催 51名	
		10	点訳・朗読ボランティア養成事業	〃	10. (1)点字、点訳体験を通して、視覚障がいについての理解と点字(点訳)の必要性を学び、点訳ボランティアを養成することを目的として開催 (2)朗読(音訳)体験を通して、視覚障がいに関する理解を深め、朗読の重要性を知り、朗読ボランティアを養成することを目的として開催	10. (1) 1)点訳の基礎知識を学ぶ 2)実技演習とパソコンを使用した点訳体験 3)点訳赤十字奉仕団の活動紹介 (2) 1)朗読の基礎知識を学ぶ 2)朗読の実践(文章の読み方と実習) 3)朗読赤十字奉仕団の活動紹介	10. (1)4回開催 10名 継続者 3名 (2)4回開催 5名 継続者 1名	
		11	福祉学習推進事業	〃	11. 市内の小中学校や地域を対象に介護の体験・疑似体験・当事者講話などを通して他者を理解する等の授業を実施	11. (1)学校や地域に対しての福祉教育の充実を目指し、プログラムの内容や講師の充実を図る。 (2)福祉学習の推し進めを目的としたセミナーを開催する。(市民ボランティア講座分科会「障がい児・者の生活」と兼ねて開催)	11. (1)14校 111学級(延べ) (2)8月22日開催 29名	8.13校 101学級(延べ)
	社会福祉事業拠点	福祉人材バンク事業	1	福祉人材バンク委託事業	基本目標2	胆振・日高管内を担当エリアとし、福祉職への就職を希望する求職者と福祉職を求める施設・事業者とのマッチングを目的とし、合同面接会(年2回予定)やマンパワー活用研修を企画実施する。また、ハローワークでの出張相談(室蘭・伊達・静内・浦河 月1回)を実施。	・マンパワー講習会では、福祉未経験者や様々な世代が参加しやすい研修として、「見つけませんか？新しい働き方」キャリア&ライフプランをテーマにお金や税金のことスキルアップについての講話を実施した(10名が参加し、内、2名がバンク登録) ・福祉職場説明会では、苫小牧開催では、1回目12法人・参加者17名、2回目10法人・参加者26名、室蘭開催では、5法人・参加者13名が参加し実施した ・マッチング19件の内容:介護職5件、障がい施設支援員・相談員3件、社協2件、事務6件、保育士2件、調理補助1件	求職者 114名 求人 315件 マッチング成功 19/19件
法人運営事業		1	理事会・評議員会	基本目標3	理事会および定時評議員会・臨時評議員会・役員研修会を開催	令和4年度は、理事会、評議員会を招集開催とし、理事、監事、評議員へ社協事業の進捗状況等の情報共有を行い、ガバナンスの強化を図った。	理事会:第1回6月2日・第2回9月21日 第3回12月13日・第4回目3月9日  評議員会:定時6月17日・第2回10月6日 第3回12月23日・第4回目3月17日	理事会:第1～3回書面開催 第4回12/14  評議員会:第1～2回書面開催 第3回12/24
		2	監事監査	〃	四半期および決算時に職務執行状況及び財務監査を実施し理事会・評議員会へ報告	定款に基づく、財務・事業の状況報告を四半期ごとに実施した。	第1四半期8月18日・第2四半期11月10日 第3四半期2月16日・第4四半期5月18日	第1四半期8/25・第2四半期11/11 第3四半期2/17・年度監査5/12
		3	社協会費募集	〃	社協財源確保のために賛同会員の加入促進を図る。	社協だよりやホームページ等で広く社協会員の周知を図り、社協リーフレットを活用し市内の企業や団体、また、地域住民に対して会員拡大に向けた呼びかけを、役員へも協力いただき社協全体で取り組んだ。(前年比103%、222,700円増額)	納入額 6,382,900円 1号 149件、2号 211件 普通 82件 合計 442件	納入額 6,160,200円 1号 349件、2号 199件 普通 82件 合計630件
		4	労務・財務管理	〃	職員の労務管理および会計基準に基づく財務管理と関係機関への各種届出・申請・登記	関係機関への法令に基づく届け出等については迅速かつ確実に行う事ができた。	登記届出:6月20日	登記届出:6月25日
	5	職員研修	〃	コンプライアンス体制の構築	育児・介護休業法の改正に伴い研修会を実施。制度の理解や職員の意識向上を図るよう努めた。 (全職員50名が参加)	職員研修 8月8日、9日 「育児・介護休業法に関する制度の理解と助け合える職場の環境づくり」出席50名	職員研修:ハラスメント研修 8/12、13 出席49名	



令和4年度事業実績報告

拠点区分	サービス区分	番号	事業名	地域福祉実践計画体系	具体的な実施事項	令和4年度 事業実施内容	令和4年度実績		令和3年度実績	
		6	福祉車両・車いすの貸出	基本目標1	車いすが必要な方の社会参加の支援として福祉車両及び車いす貸出を行う。	病气やケガ、介護等により通院や外出時等の移動が困難な方へ無料で貸し出しを実施し、在宅での生活介助負担を軽減した。	車いす276台	福祉車両36件	車いす259台	福祉車両44件
市民相談事業拠点	市民相談及び貸付事業	1	生活福祉資金・生活応急資金等貸付事業	基本目標1	借入れの背景にある生活課題を把握し、その解決に向け関係機関と連携し資金貸付と相談を一体的に行う。	・世帯の経済的自立と安定した生活に向けた相談対応を心掛け支援を行った。 ・必要に応じた支援を構築する為、行政関係課やその他関係機関と連携を積極的に図った ・特例貸付借受者からの生活相談等対応(本則資金の借入相談等)	相談 1,253件	貸付 250件	相談2,559件	貸付840件
		2	市民相談事業	〃	専任相談員による各種相談支援、及び弁護士(3名)による無料法律相談(月1回)	・基礎的な相談対応が出来るよう相談担当職員の人材育成及び組織体制を図った ・相談内容により、弁護士及び他職種へ繋げる支援を実施してきた	応急資金貸付 243件		応急資金貸付203件	
	日常生活自立支援事業	1	日常生活自立支援事業	基本目標3	高齢・障がいにより日常生活の判断に不安があり生活支援員の支援を希望される方に生活支援計画書を作成して、サービスの契約や日常生活上の金銭管理の支援を行う。	・新規相談・利用契約対応。 ・訪問モニタリング・臨時支援対応 ・専門員、支援員の交流研修会6月と支援員研修会3月に実施 ・成年後見制度への申し立て支援(5名) ・市民・他機関に対しての周知活動	委託分 27件		委託分 29件	
		2	成年後見支援センター事業	〃	判断能力が不十分な方の権利と財産を守るため、家庭裁判所の審判に基づき、本会が後見人を受任し、養成した後見支援員と共に支援を行う。  成年後見制度活用に関する広報啓発、相談及び利用支援、受任調整。市民後見人の養成研修(年2回)、活動支援、親族後見人、専門職後見人の活動支援。	・月1回の支援会議を実施、情報の共有・支援課題を検討し、課題の早期解決に務めた ・事務処理がスムーズになるよう様式等の改善。後見事務担当支援員の増員(新たに2名採用) ・金銭の出し入れについてチェック体制の強化(耐火金庫の設置 ・支援対応職員スキルアップ向上研修への参加  ・新規相談対応。 ・市内7包括・各支援事業所等開催会議への出席 ・TMネット会議の新設(専門職を対象) ・受任調整会議実施。 ・市民後見人養成講座実施(年3回(3町1回)) ・市民後見人フォローアップ研修実施(2回) ・3町への訪問相談を月1回継続、課題を見つけ出し、申し立て支援を実施。 ・裁判所・1市3町(市・3町の社会福祉協議会含む)による情報共有会議への参加	独自分 2件		独自分 2件	
介護保険事業拠点	居宅介護支援事業	1	居宅介護支援事業	基本目標1	要介護認定を受け、介護保険サービスの利用を希望する方に対し、ニーズの把握やケアプランの作成を行い、在宅生活を支援する。また要支援認定者に対しても各包括からの受託でケアプラン作成等を行う。	自主研修プログラムの充実と外部研修への積極的に参加し、介護支援専門員のスキル向上、利用者のニーズに対し、適切な支援を行っていきよう努めてきた。	介護 1,589件		介護1,786件	
		1	介護認定訪問調査事業	基本目標1	苫小牧市以外の市町村(保険者)より依頼された認定調査を実施	調査スキルの向上に努め、他市町村保険者からの依頼については、全て対応出来る体制を整えてきた。	予防 108件		予防 130件	
		1	訪問介護事業	基本目標1	ホームヘルパーを利用者宅へ派遣し、掃除・洗濯、買い物などの家事や、入浴などの身体介護を提供し、住み慣れた住まいで長く生活が出来るよう支援していく。	多様な福祉ニーズに対応するため、自主研修を継続して介護職員のスキル向上に努め、さらには安定した雇用確保と、処遇改善のための補助金や処遇改善加算の支給基準を維持継続してきた。	他市町村 93件		他市町村 156件	
		1	障がい事業	基本目標1	障がい者を対象とし、自立した暮らしを支えるためにホームヘルパーを派遣し、掃除・洗濯、買物等の家事、入浴などの身体介護や、視力に障がいがある方への同行支援を提供する。  障がいにより、屋外等での移動に著しい制限がある方への外出支援を行う。	障がいを持つ利用者の理解と多様なニーズに対応するため、定期的な自主研修を開催し、ヘルパーのスキル向上に努めてきた。	派遣回数 6,117回 (訪介 4,820回 総合 1,297回)		派遣回数 6,170回 (訪介 4,834 総合 1,336)	
指定管理事業拠点	男女平等参画推進センター事業	1	男女平等参画推進センター事業	基本目標3	サークルの登録・育成・指導及びサークル協議会運営、相談事業実施、託児事業実施、自主事業実施  男女平等参画に関する研修・講習等の実施、男女平等参画に関する相談事業の実施及び情報収集と提供	男女平等参画に関する相談事業・女性活躍促進事業・自主事業の充実を図った。各部屋の美化に努め、修繕や備品整備を行い、利用しやすい環境を作る。SNS等を積極的に活用しセンターのPR活動を行い、新規利用者の開拓を図った(主に若年層～働き世代)。	利用件数 4,246件		利用件数 3,307件	
		1	市民活動センター管理運営事業	基本目標3	市民活動センター管理全般	アンケート等を通じて利用者のニーズを把握し、環境整備や市民が利用しやすいサービスの提供に努めるため修繕業務などを市と協議しながら実施した。また、市民活動センターの利用促進を図るため自主事業を実施した。 新型コロナウイルス感染予防については、柔軟に対策を行い利用者の安全に努めた。	利用料収入 2,612,100円 参加料収入 608,300円		利用料収入 1,808,350円 参加料収入 637,254円	
指定管理事業拠点	市民活動センター管理運営事業	1	市民活動センター管理運営事業	基本目標3	市民活動センター管理全般	アンケート等を通じて利用者のニーズを把握し、環境整備や市民が利用しやすいサービスの提供に努めるため修繕業務などを市と協議しながら実施した。また、市民活動センターの利用促進を図るため自主事業を実施した。 新型コロナウイルス感染予防については、柔軟に対策を行い利用者の安全に努めた。	利用件数 3,521件 利用料収入 1,824,425円		利用件数 3,313件 利用料収入 1,547,950円	
							自主事業 ①5月28日 花壇づくり ②8月1日～10月31 アンブレラスカイ		自主事業 ①8月16日～10月31 アンブレラスカイ	